

# 百人一首抄

下

士

太政官文庫			
三	特別	和	門
二	三〇	書	類
一	四	函	號
三	冊	架	冊

内閣文庫	
番號	和 32304
冊數	3 ( 3 )
函號	特 27 6

共三



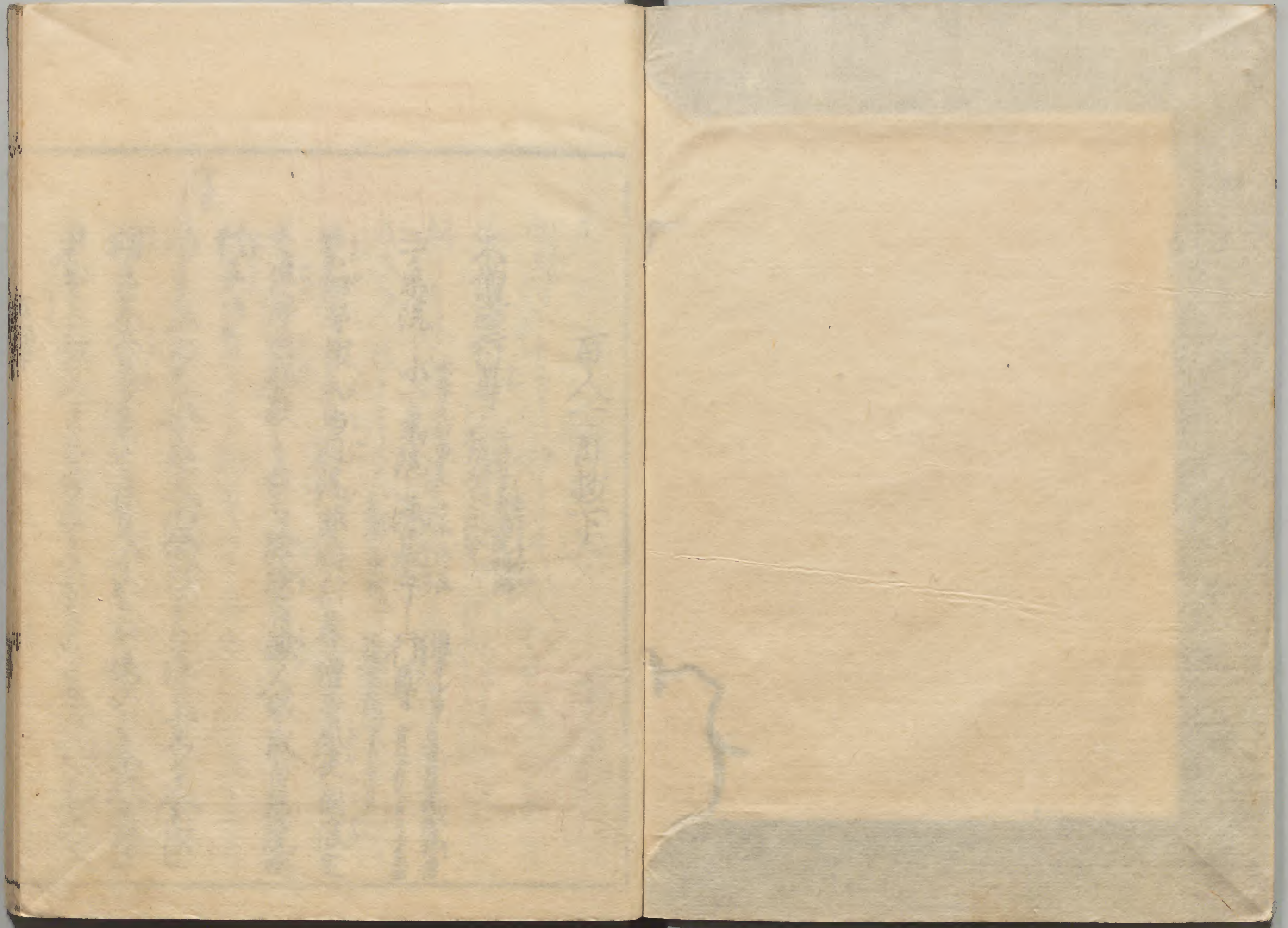
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

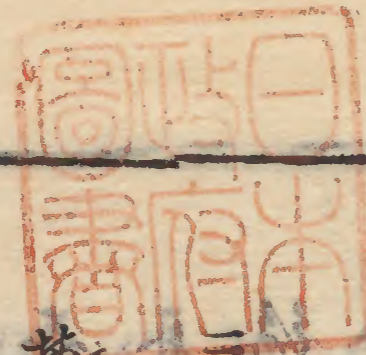
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







百人一首抄下

大僧正行尊

三井寺 慈満院 祖師  
天徳寺 法務

二条院

寛平元年 辞東夏

源基字

行尊

権寺 牛車 鳥羽白河院 権持僧  
昔三升ヨリニ垂テ

禁秘部抄云

鳥羽院 御時行尊僧正

及夜

同 依定

て候御陪膳

扱とわり 修験者 瀬人也

或向

河院

程子云

合案

河

山梯

小志

河

大

系

の

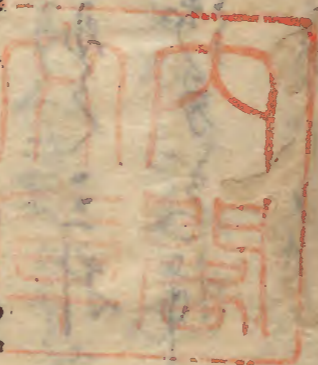
入

と

わ

り

百人一首抄下



小頃邊のこころひく南時くく杖のこ入御りよ  
 やま入とん（イミ）乃（イミ）こころひ林入を（キヤウ）の（イミ）こ  
 いら（イミ）是の頃乃（イミ）こころひた形る人し思ひぬ極子  
 仰りお月さうらの（イミ）の（イミ）も（イミ）も方れ心（イミ）死（イミ）り外  
 母ある人（イミ）之形（イミ）と心（イミ）今家（イミ）を（イミ）死（イミ）るを（イミ）母（イミ）  
 ある人（イミ）も（イミ）さ（イミ）し（イミ）心（イミ）ひ（イミ）て（イミ）ら（イミ）う（イミ）又（イミ）む（イミ）を（イミ）あ（イミ）り（イミ）母  
 母ある人（イミ）わ（イミ）し（イミ）と（イミ）心（イミ）ひ（イミ）て（イミ）ら（イミ）う（イミ）又（イミ）む（イミ）を（イミ）あ（イミ）り（イミ）母  
 後とふゆそれと心（イミ）ひ（イミ）て（イミ）ら（イミ）う（イミ）又（イミ）む（イミ）を（イミ）あ（イミ）り（イミ）母  
 小一乘院（イミ）北（イミ）條（イミ）白（イミ）河（イミ）院（イミ）淨（イミ）妙（イミ）子（イミ）あ（イミ）く（イミ）二（イミ）升（イミ）と（イミ）後  
 酒院（イミ）の（イミ）つ（イミ）ま（イミ）なり（イミ）や（イミ）ど（イミ）も（イミ）死（イミ）人（イミ）乃（イミ）淨（イミ）妙（イミ）子（イミ）あ（イミ）く（イミ）二（イミ）升（イミ）と（イミ）後  
 ひ（イミ）こ（イミ）よ（イミ）入（イミ）く（イミ）ひ（イミ）ひ（イミ）給（イミ）お（イミ）お（イミ）も（イミ）う（イミ）無（イミ）在（イミ）と（イミ）後（イミ）

親のこころひく南時くく杖のこ入御りよ  
 やま入とん乃乃こころひ林入をののの  
 いら是の頃乃こころひた形る人し思ひぬ極子  
 仰りお月さうらののののの方れ心死り外  
 母ある人之形と心今家を死るを母  
 ある人もさし心ひてらう又むをあり母  
 母ある人わしと心ひてらう又むをあり母  
 後とふゆそれと心ひてらう又むをあり母  
 小一乘院北條白河院淨妙子あく二升と後  
 酒院のつまなりやども死人乃淨妙子あく二升と後  
 ひこよ入くひひ給おおもう無在と後

周防内侍 スハウノチノイ  
 棟仲女（イミ）  
 相武天宮 （イミ）  
 高棟 （イミ）  
 惟範 （イミ）  
 時望 （イミ）  
 真我 （イミ）  
 親信 （イミ）  
 重義 （イミ）  
 继仲 （イミ）  
 周防内侍 （イミ）  
 仲子（イミ）





終ひの也

能周法師

播磨兄

純行 忠澄

能因

天海

比叅

了如

あした

佳接

嵐少のまゝ此の如きなる勢田川の流るるを

永義河舟内裏方合中わりは

ある一尺時流れ系氣と糸の

みゆかへさありわるとく

粉骨也是も城小よたれ

此方なるも末代の人や

傳りしお流るる実乃乃と

末代の人風とりりふゆ

きんあまらりあやとく

また今人丸のあま

是田川もみらるる津

はれまへへとくは







けいあふくくしりきそわい殿いあひい人とのまをせ  
 ぬくの深とあうれまひくまよまひいしあうわい  
 へいふいあおきやあらうりなをうれ人あわ  
 うけまひきこれ後まうりうああひい人あらうり後  
 けきうりあはあひいふんを神のおまひも  
 ありとれいしりまうりあまひるあまひい  
 けあひらあまひい物まひまうりあまひい女のお  
 めてあひあまひのうり

権中納言と医房  
 母権孝親女三位大慈天親持師長  
 大い音人千石 維時 重光 匡衡 奉周 成衡 匡房  
中納言 侍大納言 侍大納言 侍大納言 侍大納言 侍大納言 侍大納言

後抄

ち抄のあ極えたあうり外山のうすまあひらうりま  
 内のはあまうりまあひ家あひい人さひあまうり  
 てあまひあひらあまひい山様とまひいよのうり  
 五ひらあひい乃あまひらあまひいあひい  
 のやあ風あひいあまひいあひいあひいあひい  
 けあまひいあひいあひいあひいあひいあひい  
 あまひいあひいあひいあひいあひいあひい  
 なうりあひいあひいあひいあひいあひいあひい  
 うあひいあひいあひいあひいあひいあひい  
 あまひいあひいあひいあひいあひいあひい  
 のあひいあひい





河内新院位母あり海一とさし海山をさし  
 いづらきよきせ終りるふふあまをわりの明  
 るりあまあま乃りていつるさうらうらうの  
 きよよなまがめやうらうらうのさしとあれたあ  
 みくよめらふ心終れくやあれた海さけわりそ  
 御徳りさうらうらう一松子が結よま水船如坐天と  
 わり又た又ま水船 勝王關城 林水も長天一色ともわ  
 りやあまあまふふあお船さうらう御徳乃さま  
 ちくくさくさくふふあまのさしとあれたあ  
 もくくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 心あまあまのさしとあれたあ

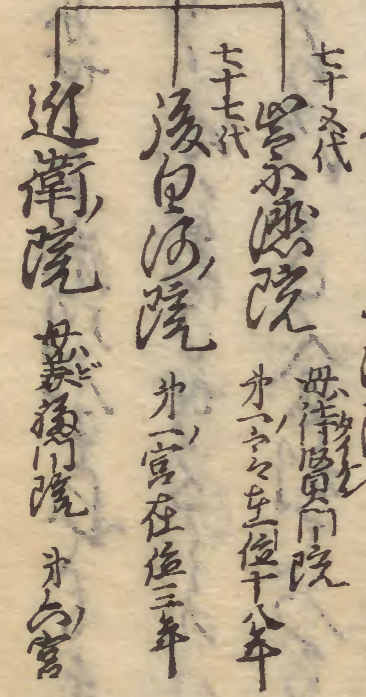
くくくくく

鳥羽院

諱 隆仁 鳥羽院の皇子  
 母 侍賢門院障子大御女御白河院御孫

元永二五女八降誕同六月十九日為親王保安四女八  
 為太子即受禪 八歳 同二月十九日即位太極殿大治二年  
 朔元眼 十二歳 永治元十七日讓位 在位十八年 但元七女二  
 配 流燗伎國 五十二日於仁和寺お家長長寛二八女八歳  
 配 不崩 早六歳 追号 鳥羽院

鳥羽院







此よりきやぬる月ハ今みきぬるやうに心や  
ぬいふもぬきくうに心とそ源氏物語  
をくぬぬの月の縁より一わくしきうらさく  
まらほむわらうしん月とぬくはほとそ  
所おくるとぬひとさはんのおとあをさう  
ぬわらうとさよまきとそ思ひぬらあわら  
あさき詩月と浮雲流るのと同じんまり

待賢門院堀河

神祇伯頭仲女

村上守七の子後中書王  
眞字親王能 師房能 顯房能 顯仲能 源河能 待賢門院女房

待賢門院とそ御院の名景徳後白河二代母后

大納言とそ美女白河院御子とそ 源仲の男女子  
七人撰集よ入とそ 中房有房忠房待賢門院御孫  
白河川より御の勅此内い御河別してあ合らとそ

お

とそあよとそわらわらとそ心とそあつらとそ人の心末  
とそぬくらとそさん心とそあつらとそあつらとそ  
とそぬみ思ひとそさん心とそあつらとそあつらとそ  
とそあつらとそあつらとそ人の心とそあつらとそ  
とそあつらとそあつらとそあつらとそあつらとそ



又細のくらくらめくひるに抱くる人

後滋左の丸大臣

實是之母中納言後忠母

東宣太子  
實子  
實子  
實子

實能  
實能  
實能

通季

待賢門院  
待賢門院

其

約くあはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ

あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ  
あはれぬもはるくしてさほくはくしあはれぬ

道隆法師

為輔  
惟孝  
惟益  
魚房  
敦捕  
法孝  
敦頼



とらて今りと思ひ入出の奥は廣れおる一葉が  
らち明くとまきく山乃奥中も世のうたむのわりの  
たうと思ひく世中よのぶきわづきたむりある  
思とらう歌くふまら又せ中とさそいもさそま  
させおむのひ入出のあけぬもうたむのあつた  
むおのふまら世よなむいむわらうらむら世  
よふるまら返おのひいむらまらうあつた  
いふくも又くもえぬ入らうくもあつた  
ひ入出の依と世のあつたまらぬおのひ入出  
世のうたむも乃とむらひ入出の二葉とらとそ  
世のうたむも乃とむらひ入出の二葉とらとそ  
世のうたむも乃とむらひ入出の二葉とらとそ

奥書

一

初くとも乃そあつたあつたあつたあつた  
てりてあつたあつたあつたあつたあつた  
つと又子我葉母りめハ撰おれあつたあつた  
後あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
もらうあつたあつたあつたあつたあつた  
又首とあつたあつたあつたあつたあつた  
藤原清輔の治  
進正位下  
藤原清輔の治  
進正位下  
藤原清輔の治  
進正位下

奥書

一





後成シシ一サカ之ナカ長ナガ

希道也シキドウ

後成シシのノ孫ムコ子コ

突ツキ然シ後海シシ之ノ子コ

海邊也ウミノヘ

唯月記ツキノキ云ク建仁二年七月廿日午時許ツキニ

泰チ上ウ无ム中チユウ每ミツ

か捕入道ツカメド逝シ云ク乃ノ中チユウ也ヤ

殊ツギ也ヤ及ツキ其ノ因イン之ノ以ヨリ退タイ也ヤ

已ス後ノ考コウ為シ服フク身シ也ヤ

浮ウキ生シ也ヤ雖モ不レのノ勢セキ今イマ也ヤ

象傷ゾウキウ之ノ思シ難ガ禁ギン自リ切キ也ヤ

昔ムカシ久ク相アヒ別ワケ已ス及ツキ數ス十ジュウ廻クワ

况イハレ於テ和ワ矣ヤ乃ノ若ニ傍ホウ擊キ難ガ人ヒト乎ヤ

已ス以ヨリ勢セキ其ノ退タイ物モノ也ヤ

今イマ海ウミ泉イハ為シ道ミチ之ノ根ネ於テ身ミ也ヤ

又マタ是コト也ヤ乃ノ其ノ勢セキ

よ是ヨリ也ヤ寂シヤク道ミチ逝シ云ク何ナニ也ヤ

也ヤ

初ハツメ也ヤ

村ムラ也ヤ乃ノ其ノ勢セキ也ヤ

也ヤ

いふと我人ワガヒト格キヤク乃ノ其ノ勢セキ也ヤ

ト母ハハ又マタ考コウ之ノ意イ也ヤ

真マコトもモそノぬノよノ勢セキのノたタれレりリとトいイふフのノ風フ情セイ也ヤ

くクくクくクとトいイふフ也ヤ南ナン海カイ乃ノ心シン也ヤ

れレ林リンのノ夕セキ乃ノさサまマりリてテいイふフ也ヤ

とトいイふフ也ヤ

きキふフこコうウろロうウろロうウとトいイふフ也ヤ

海ウミ山ヤマよヨあアらラおオさサらラ林リンのノ夕セキよヨむムらラ海ウミのノうウらラとトいイふフ也ヤ

てテいイふフ也ヤ

勢セキのノたタれレゆユらラとトいイふフ也ヤ

とトいイふフ也ヤ

御子御孫はけりしむくはせ

皇太后院別當

源後隆女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

皇太后院法持の御女大納言宗通女

らまるとふは御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子  
わのうら御のうらみは御のひまひては乃縁子

式子内親王

母後三位成子 大納言宗子成女

萱翁院

母後三位成子 大納言宗子成女

二条院

安徳天皇







百々いふとすつらし時とありふ箱敷の杖造  
 ぬきうへに杖造人々也春のうきおそれたり  
 おとどまびるおらて然る家也百次ありて  
 ちもわらうとておもはるる又も詩小娘轉念床  
 下とわりぬぬのゆらり入るれとてられんとて  
 小ねらうまてきとてなら杖造云理よとてさ  
 ぬ也共世といふら杖造のんといひつとて  
 金さのともらひえぬ女一ましぬれ相も珠  
 指ししるるもあく母さるるもぬれ  
 けいもあつのでとてさおとて相乃字さる  
 共杖造まてぬきまてゆらりぬれ丸のり

びいのおられぬぬのまどりのゆめまやうとて  
 安し小長成乃ゆらりぬれぬをとり杖造心新  
 先洞の用といふまてゆらりぬれぬ

二系院シサメキ 貞親王シサメキ  
二系院の貞親王の御子

法和天皇シサメキ 貞化親王シサメキ 經基シサメキ 滿中シサメキ 賴光シサメキ 賴綱シサメキ  
右系院の内守藤原道隆

付心シサメキ 賴政シサメキ 仲綱シサメキ 女シサメキ  
賴行女 貞親院御孫

家神の邊子ぬみぬれぬぬの人もまてのうらぬ部  
 家神といふらぬとわらぬぬらぬ神なりぬ

百々抄

二系院

形くうくぬりさくくはつひらきいあめれ海  
 とらぬあひ人よさくあめれさくともあひあめれ  
 さのふくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 うもあめれあめれくくくくくくくくくくく  
 みらあめれくくくくくくくくくくくくくくく  
 いふくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 そくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 あくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 国くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ぬもくくくくくくくくくくくくくくくくく

鎌倉右大臣 実朝公右大将頼朝二男  
 母平時正女二位尼殿

義朝 住信后妻の軍  
 左大臣の二位

頼朝 住信后妻の軍  
 左大臣の二位

義朝 住信后妻の軍  
 左大臣の二位

安貞朝 鎌倉の公  
 母同上

此鎌倉右大臣常盤井相国公等内府山之人  
 宅家門才之内様  
 世中其はひあまがりふ流あくわめあめの細きくあも  
 題くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 世中とあよくくくくくくくくくくくくくく  
 みらくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 けぬくくくくくくくくくくくくくくくくく

承和をり松野子入壽幸入ハ解き...  
 親とらりたれ方ふん無き母入へん...  
 子もろくも好く常あもく...  
 多法なめきめ...  
 子とて...  
 世に...  
 此面...  
 引さ...  
 月...  
 心...

系議雅經

世ノ子 雅經の弟 男 雅經の弟 雅經の弟  
新古今撰

系長 刑ノ後三任

師兼 忠教

頼輔

頼經

雅經 三木元兵衛

かりた山乃松風...  
 擣...

山乃松風...  
 山乃松風...  
 山乃松風...  
 山乃松風...



金道前大改大后

孝子 乃行之内大后 孝子 乃行之内大后 孝子 乃行之内大后

通季

實宗

経

孝子 乃行之内大后 孝子 乃行之内大后 孝子 乃行之内大后

抄和

乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后

乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后 乃行之内大后

權中納言之家

後成男 母乃後守 祝忠女

定家以母祝忠女ヲハ表福門院女官伯耆ト云初嫁

友原為經日澄信朝臣正二位民部卿貞永元十月

出家法名乃勲仁治二八廿薨 八十歳 本名光季子改季

光後改之家新在令撰者五人之随一勲勅撰撰

者記号の用系圖は人よりあり

あぬ人をまの浦乃タ多紀よわくやりの身方もあ

建保六年内裏の御事  
可成乃ちあるまの御事  
流るる御事  
あぬ命をまの浦に  
さる御事  
志存也くきつり  
さ海切ま  
まの浦の浦に  
河に流るる御事  
御事を  
わらぬ

夕暮れも  
いあふ  
御へ  
御事  
を  
御事  
御事

後二位家

前中納言  
生二位高内  
今撰  
又八之内

本名雅隆母  
大石文亮  
實業朝臣  
女

後成  
寂蓮法師  
也









百人一角作若部數

天子八人

天智天皇

持統天皇

陽成院

光孝天皇

三條院

崇徳院

後白河院

順徳院

親王二人

元良親王

式子内親王

執政一人

貞信

藤原

法性寺内白

後系極指政

大臣五人

河原左大臣

三條右大臣

後深大左大臣

藤原右大臣

八道前太政大臣

大納言二人

公任卿

經信卿

中納言

家持卿

河平卿

兼輔卿

敦忠卿

朝忠卿

定賴卿

近房卿

定房卿

冬冬議官人

仲磨卿

冬冬卿

冬冬卿

冬冬卿

非冬議官人

道雅卿

冬冬卿

冬冬卿

冬冬卿

冬冬八人

在原業平

藤原敏行

源宗平

大中臣能幹

百人抄下

三十三

藤之安房 藤原道信 源俊賴 友清捕

五位二人

藤義孝 藤基俊

地下十七人

女屋原秀 大江千室 九河内躬恒 壬生忠岑

坂上是則 春道列樹 紀友則 友真風

紀貫之 清原深養文 文屋朝康 平兼盛

壬生忠見 清原元捕 曾祿好忠 源重之

源兼昌

女房二人

右大将道綱母 儀同三司母

官女十七人

小野小町 修勢 在道 和泉式部 紫式部

大式三位 赤深米門 小式部内侍 侯深之捕

清少納言 相換 周防内侍 祢子内親王家紀伊

待賢門院堀河 皇嘉門院加茂 殷富門院大浦

二條院廣心

僧正二人

遍昭 行尊 慈圓

法行九人

素性 慈慶 能剛 良暹 道因

俊惠 西行 赤蓮

人麿

此外人

和入

撰九本史

博史

神

菅家

父子或三代作者

此内不作者細之也

天智天皇一持統天皇

遍昭素性

忠岑忠貞

陽成院元良親王

三條右大臣朝忠康秀朝康

嵯峨院順德院

法補 弘補

藤原藤原

後成 藤原

法性寺阿白

法京攝務致

前大僧正慈園

公任之頼

和泉式部小式部内侍

經信俊頼俊惠

紫式部大式部位

仍平深養元補法少納言

業守頼基能宣捕親保勢入補

此百人能之滋歎近代往在之或繁試田者汝

異或同仍難一史而此百有者道之脈傳和哥

之骨因學者之用心也後之且何說又加取捨

為一冊作者之系考等也足軒被劫加之後致系友

畧考等在之未史之事者暫閑之連之閑暇之

百ノ...

時猶可補之而已

平時慶長之曆臘

敬忘下之凍碓記之

日...



Faint vertical text columns on the right side of the page, likely bleed-through from the reverse side.

